

令和2年度 東北・北海道地域国際化協会連絡協議会  
「災害時に外国人支援に従事する関係者向けの研修・訓練事業」実施報告

ブロック	東北・北海道ブロック	幹事団体	公益財団法人宮城県国際化協会
開催日時	2020年10月6日(火) 9:30~16:40		
研修のねらい・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>●災害多言語支援センターでの活動を実際に行うことにより、災害時における外国人住民支援を円滑に行うために必要な事前準備事項を明らかにし、今後の災害に備える。</li> <li>●災害時に必要な事前準備事項の中で、特に次のことを明らかにする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①実地訓練を通して災害時の外国人支援のイメージを明確にする。</li> <li>②イメージを明確にしたうえで、地域国際化協会としての課題、広域連携の課題を探る。</li> <li>③災害発生前の情報発信や提供情報について確認する。</li> <li>④新型コロナウイルス感染症に対応したネット環境を活用型支援活動のあり方を探る。</li> </ul> </li> </ul>		
前提条件	<p>1. 災害多言語支援センター開設前の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●今回の訓練の参加者は、接近する台風に対して、各地域において、外国人住民へ事前に情報提供を行う任にあることとする。</li> <li>●提供方法については既存の方法のみならず、日常において利用可能な手段を用いることが可能とする。</li> </ul> <p>&lt;台風の状況&gt;</p> <p>参加者のメールアドレスに「【訓練情報】台風の状況」として、個人作業の時間開始前までにPDFファイルを送信する。</p> <p>2. 災害多言語支援センター開設・運営</p> <p>台風の通過に伴い、宮城県内に大きな被害が発生しているため、MIAが設置した、宮城県災害多言語支援センター業務に、それぞれに地域から遠隔地からの支援で携わることとする。</p> <p>それぞれの地域における参加者の通信環境は被害がないこととする。</p>		
会場・場所	ZOOM		
参加者	地域国際化協会東北・北海道ブロック構成団体、東北・北海道地域の地方自治体 41名		
研修内容 (概要)	<p>10:30~10:40 開会挨拶 自治体国際化協会理事 鳥田 浩平 宮城県国際化協会専務理事兼事務局長 小野 義啓 氏</p> <p>10:40~11:40 &lt;講義：災害時多言語支援センター活動について&gt; 講師：勝谷 知美 氏</p> <p>14:00~15:30 &lt;災害多言語支援センター設置・運営訓練の進め方&gt; 解説：高橋 伸行 氏</p> <p>14:00~15:30 &lt;災害多言語支援センター訓練&gt; ファシリテーター：高橋 伸行 氏</p> <p>○総務班と情報班に分かれて作業</p> <p>総務班作業： 宮城県国際化協会担当者を中心に、多言語支援センター運営を実践してもらおう。総務班は、外国人被災者の状況把握、多言語化言語の選択、通訳者・翻訳者の確保と検討を行い、多言語支援センター内の掲示板に情報を共有できるよう作業を進め、完成品は随時、共有フォルダに保存する。</p>		

情報班作業：

災害対策本部等からの情報をもとに、災害情報の切り分け（ライフライン・交通・生活一般など）を行うとともに、発信情報の選択、優先順位付けを行い、A4サイズ2枚程度（A3見開き1枚）にまとめた情報チラシ（多言語版またはやさしい日本語版）を作成し共有フォルダに保存する。これまで設置運営された災害多言語支援センター（以下「センター」という）の事例から運営上の課題と今後の災害時外国人支援を考える。



（情報共有している様子）

- 15:00～16:00 <避難所巡回訓練>  
・被災している外国人のニーズを把握する  
・被災している外国人に情報を届ける
- 15:30～15:45 <外国人支援体験・相談対応>  
・参加者2名が体験する。
- 15:45～16:20 振り返りとまとめ  
・事例発表を踏まえたファシリテーターによるアドバイス など
- 16:20～16:30 情報提供 NHK ワールド紹介（NHK 国際放送局）
- 16:30～16:40 閉会 挨拶（クレア多文化共生課長 藤波香織）

まとめ

新型コロナウイルス感染症の影響により、完全オンラインでの開催となりました。今回は地域国際化協会の実務担当者や自治体職員の参加が多く、参加者間の顔の見える関係づくりの機会となりましたが、オンラインシステム操作の不慣れや、クラウドを活用した情報共有等が上手くいかない場面があり、多くの課題が浮き彫りになりました。この課題を次の研修・訓練の開催地や災害時でのオンライン対応に生かせるように検討していきます。

<被災者役として参加した外国人から>

- ・いろいろな相談をされると思うので、せめて英語を覚えてほしい。
- ・翻訳機やアプリ等を活用して会話してほしい。
- ・東日本大震災の時は不安だったが、友達同士で助け合った。外国人を助けてほしい。

<講師から>

- ・災害が起きたら上手くいかないことだらけ。そのような時にどう対応するかを考えることが大切。
- ・日頃からのつながりがあれば、連携はもっと上手くいく。
- ・訓練は失敗するのが目的でもある。最初から上手くいく人はいない。失敗しない訓練はない。
- ・信頼されなくならないように、日頃から自分たちはどのようなことができるのか考えておく。
- ・組織や立場は関係なく外国人を支援する目的は一緒。